

令和 6 年 6 月 8 日現在

機関番号：32689

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20035

研究課題名（和文）日本古代文学における『出雲国風土記』に関する研究

研究課題名（英文）A study on Izumo Fudoki (The Records of Izumo) in Ancient Japanese Literature

研究代表者

ANDASSOVA Maral (Andassova, Maral)

早稲田大学・高等研究所・講師（任期付）

研究者番号：80962076

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、関テキスト性の側から『古事記』、『日本書紀』、『出雲国風土記』、『出雲国造神賀詞』を解読することによって、『出雲国風土記』に対して新たな解釈と方法を導き出すことにあった。本課題に関する文献調査、現地調査、資料収集・解読をとおして、次のように成果の発表ができた。日本国内の学会発表を2件、国際会議での発表を2件行い、学会誌で論考を1件刊行した。これによって、「関テキスト性」という方法を導入した上で、『出雲国風土記』に対する新たな視野を提供できた。また、国際学会での発表を通して、国際的な日本古代文学分野における『出雲国風土記』研究の重要性を示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年は古代文学関連の学会において、一つのテキストに閉ざされるのではなく、いくつかのテキストの間で共有されている要素に目を向け、分析を行う方法が注目されるようになってきている。本研究は「関テキスト性」という方法を構築することによって、諸学会へ新たな視覚を提示できた。また、本研究によって構築される「関テキスト性」という方法概念は『出雲国風土記』のみならず、他の『風土記』や『古事記』、『日本書紀』の解読にも適用され、古代文学のテキストの解釈・位置付けに対して新たな可能性を導き出すことに意義がある。

研究成果の概要（英文）：The objective of this research was to derive new interpretations and methods for the Izumo Fudoki from the perspective of intertextuality. Through a comprehensive literature survey, field research, collection, and deciphering of materials on this subject, we were able to present our findings as follows: two presentations were made at academic conferences in Japan, two presentations were made at international conferences, and one article was published in an academic journal. This has provided a new perspective on the Izumo Fudoki, based on the introduction of the method of intertextuality. Furthermore, through presentations at international conferences, we were able to demonstrate the importance of Izumo Fudoki's research in the field of ancient Japanese literature from an international perspective.

研究分野：日本文学

キーワード：出雲国風土記

## 1. 研究開始当初の背景

『風土記』は土地の風土を伝える地理誌としてとらえられ、『古事記』、『日本書紀』を理解するための第二次資料として考えられてきた。しかし、近年は『風土記』そのものに視点を置く研究が行われるようになってきている。例えば、『出雲国風土記』掲載の「国引き神話」のリズミカルな文体が注目され、当風土記の文学性がクローズアップされている。さらに、歴史学の側から出雲固有な価値を見出す見解が示されている。すなわち、大和の側からとらえるのではなく、出雲の側からとらえる必要性が示され、『出雲国風土記』の諸記事は出雲の歴史過程、文化背景を反映させて成立したととらえられている。

その一方で、文学研究において『出雲国風土記』を『記』『紀』神話を享受して成立したとみる傾向が強い。こうした研究では『出雲国風土記』にみられる諸神格、諸概念、神話モチーフは『古事記』と『日本書紀』のそれを受け入れ、再解釈したものとして位置づけられている。本研究は出雲の固有性の側からとらえることに重点をおくが、大和との関連性に関して新たな視野を設ける必要を示している。

## 2. 研究の目的

本研究は『出雲国風土記』、『古事記』、『日本書紀』によって共有されている宗教的・神話的空間の側から分析することによって、出雲独自の主張を『出雲国風土記』から読み解き、その『記』『紀』世界との対立関係を明らかにする。こうした方法は出雲の固有性を重んじながら、大和との関連性を位置づけることに成果を生み出す。本研究は問テクスト性の側から『出雲国風土記』の神話を解読することによってそのあらたな解釈および位置づけを行うことを目的とする。

本研究によって構築される「問テクスト性」という方法概念は『出雲国風土記』のみならず、他の『風土記』や『古事記』、『日本書紀』の解読にも適用され、古代文学のテクストの解釈・位置づけに対して新たな可能性を導き出すことに意義がある。

## 3. 研究の方法

八世紀初頭に成立した諸テクストの成立背景を把握する。出雲国造神賀詞奏上儀礼に関する資料を解読し、出雲と大和で共有されていた祭儀的空間をさぐる。こうした空間を『古事記』、『日本書紀』、『出雲国風土記』における出雲神話を成り立たせるものとしてとらえ、分析を行う。

### 文献調査

国立国会図書館、国文学研究資料館、早稲田大学図書館の諸施設において、『古事記』、『日本書紀』、『風土記』などに関する研究の最新情報を収集し、資料の解読を行う。

### 現地調査

島根県に現地調査に赴き、島根県立古代出雲歴史博物館や出雲大社で調査を行い、古代出雲に関する資料を収集する。さらに、『出雲国風土記』に登場する土地・神社などを訪問し、調査を行った。

### 学術交流

文献調査、現地調査、資料分析などで得た成果を踏まえ、諸学会における研究発表を行った。

発表に関するディスカッションを通じて国内外の研究者と学術交流を行った。

#### 4. 研究成果

80年代以降は古代文学研究においては、テキストを内部で完結した作品としてとらえる傾向が主流をなしてきた。しかし、近年はこうした研究に対して、テキストの外に出て、いくつかのテキストの間で共有されている要素に目を向け、分析を行う方法が示されるようになってきている。本研究は「間テキスト性」という方法を導入することによって古代文学関連の学会の動向・問題意識を提起できたと思われる。

このように2022年10月1日に古代文学学会において「出雲国造の祖神 - なぜ『出雲国風土記』はアメノホヒを語らないのか」というテーマで発表を行った。また、2023年7月に日本文学協会第42回研究発表大会において「出雲国造神賀詞における「奏し賜はくと奏す」について」と題した学会発表を行った。また、2023年2月に論文「出雲国風土記における「天の御飯田」、「天の御領田」をよむ」(『日本文学』、日本文学協会、72号)を発表できた。

また、海外における『風土記』の位置づけも本研究の重要な課題であった。海外では、日本神話のイメージは圧倒的に『古事記』と結びついているが、『出雲国風土記』の研究を国際的な視野において展開させることにより、朝廷で成立した神話だけでなく、地方で伝わっていた『風土記』も日本の古代神話として認識されなければならない必要性和意義を示し、海外における日本神話の多様性をアピールすることができた。2023年10月にベネチアのカフォスカリ大学で開催された国際会議 *Ca Foscari Dialogs on Japanese Premodern Literature: Literature as Ritual in Japan* において「The words of ritual - the Shinto liturgy of the Izumo high priest 儀礼の言葉 出雲国造神賀詞奏上儀礼(英語)」と題した発表を行った。本発表では、『出雲国風土記』にみる出雲国造神賀詞奏上儀礼に関する記事を取り上げ、分析を行った。それによって、神話・文学・儀礼の関連性を『出雲国風土記』の分析から示して、『風土記』のフィールドの重要性を示すことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 アンダソヴァ マラル	4. 巻 72
2. 論文標題 出雲国風土記における「天の御飯田」、「天の御領田」をよむ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 52-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 アンダソヴァ マラル
2. 発表標題 出雲国造の祖神 - なぜ『出雲国風土記』はアメノホヒを語らないのか
3. 学会等名 古代文学会 10月例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 アンダソヴァ マラル
2. 発表標題 出雲国造神賀詞における「奏し賜はくと奏す」について
3. 学会等名 日本文学協会第42回研究発表大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 アンダソヴァ マラル
2. 発表標題 The words of ritual - the Shinto liturgy of the Izumo high priest 儀礼の言葉 出雲国造神賀詞奏上儀礼（英語）
3. 学会等名 Ca Foscari Dialogs on Japanese Premodern Literature: Literature as Ritual in Japan (Ca Foscari University of Venice, Italy) （国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 アンダソヴァ マラル
2. 発表標題 The Emperors in the Kojiki: In the Context of their Relationships with the Local Deities
3. 学会等名 Japan's Imperial Mythology; De/Sacralization in the Context of Exegesis, Politics and Folklore (University of Tübingen, Germany) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関